(19)日本国特許庁(JP)

# (12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7585559号
(P7585559)

(45)発行日　令和6年11月18日(2024.11.18)

(24)登録日　令和6年11月8日(2024.11.8)

(51)国際特許分類

| | | FI | | |
|---|---|---|---|---|
| *A41B 9/02 (2006.01)* | | A41B | 9/02 | F |
| *A41B 9/12 (2006.01)* | | A41B | 9/12 | E |
| *A61F 13/72 (2006.01)* | | A61F | 13/72 | |
| *A41B 9/04 (2006.01)* | | A41B | 9/04 | C |

請求項の数　16　（全31頁）

(21)出願番号　特願2024-542239(P2024-542239)
(86)(22)出願日　令和5年9月12日(2023.9.12)
(86)国際出願番号　PCT/JP2023/033235
(87)国際公開番号　WO2024/080056
(87)国際公開日　令和6年4月18日(2024.4.18)
審査請求日　令和6年7月16日(2024.7.16)
(31)優先権主張番号　特願2022-164186(P2022-164186)
(32)優先日　令和4年10月12日(2022.10.12)
(33)優先権主張国・地域又は機関
日本国(JP)
早期審査対象出願

(73)特許権者　000115108
ユニ・チャーム株式会社
愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地
(74)代理人　110000176
弁理士法人一色国際特許事務所
(72)発明者　新保 洋介
香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
(72)発明者　梨子木 健人
香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
(72)発明者　櫻井 沙也佳
香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　着用物品収容体、及び、着用物品

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
互いに交差する上下方向と左右方向と前後方向とを有し、前記上下方向及び前記左右方向に伸縮性を有し、吸収パッドと併用される着用物品と、
前記着用物品を収容する収容部材と、
を備えた、着用物品収容体であって、
前記着用物品は、再利用可能であり、
前記収容部材は、前記着用物品が前記吸収パッドと併用されることを想起させる表示を備え、
前記着用物品は、編み生地で構成され、一対の脚回り開口を備えており、
前記吸収パッドと係合する係合領域を有し、
前記係合領域は、前記着用物品の前記前後方向の前側及び後側に少なくとも一か所ずつ設けられており、
前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、
前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さの２倍以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品収容体。
【請求項２】

互いに交差する上下方向と左右方向と前後方向とを有し、
編み生地で構成され、前記上下方向及び前記左右方向に伸縮性を有し、
一対の脚回り開口を備え、吸収パッドと併用される着用物品であって、
前記吸収パッドと係合する係合領域を有し、
前記係合領域は、前記着用物品の前記前後方向の前側及び後側に少なくとも一か所ずつ設けられており、
前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、
前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さの２倍以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品。
【請求項３】
請求項２に記載の着用物品であって、
前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、
前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さ以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品。
【請求項４】
請求項２または３に記載の着用物品であって、
自然状態において、前記脚回り開口の上端は、前記着用物品の前記左右方向の中央位置における下端よりも上側に位置している、ことを特徴とする着用物品。
【請求項５】
請求項４に記載の着用物品であって、
前記上下方向において前記脚回り開口の上端と前記着用物品の上端との間に位置する胴回り領域を有し、
前記係合領域は前記胴回り領域内に設けられており、
前記上下方向において、前記係合領域の上端位置は、前記胴回り領域の中央位置よりも下側にある、ことを特徴とする着用物品。
【請求項６】
請求項４に記載の着用物品であって、
前記係合領域を前記上下方向及び前記左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力は、前記編み生地を前記上下方向及び前記左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力よりも大きい、ことを特徴とする着用物品。
【請求項７】
請求項６に記載の着用物品であって、
前記上下方向において前記脚回り開口の上端と前記着用物品の下端との間、且つ、前記左右方向において一対の前記脚回り開口の内側端同士の間に位置するクロッチ領域を有し、
前記左右方向において、前記係合領域と前記クロッチ領域とが重複する部分を有する、ことを特徴とする着用物品。
【請求項８】
請求項７に記載の着用物品であって、
前記クロッチ領域に、前記上下方向に所定の長さを有する伸縮抑制手段が設けられている、ことを特徴とする着用物品。
【請求項９】
請求項８に記載の着用物品であって、
前記伸縮抑制手段は、前記上下方向において、前記クロッチ領域から当該クロッチ領域の上端よりも上側まで連続している、ことを特徴とする着用物品。

【請求項１０】
請求項８に記載の着用物品であって、
前記伸縮抑制手段は、前記左右方向の中央部に設けられた中央伸縮抑制部を有する、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１１】
請求項１０に記載の着用物品であって、
前記伸縮抑制手段は、前記中央伸縮抑制部の前記左右方向の両側に一対のサイド伸縮抑制部を有する、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１２】
請求項４に記載の着用物品であって、
前記一対の脚回り開口のそれぞれの周縁に沿ったかがり縫い部を有する、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１３】
請求項１２に記載の着用物品であって、
前記上下方向の下端部に、前記左右方向に所定の長さを有する股下縫い部が設けられている、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１４】
請求項１３に記載の着用物品であって、
前記かがり縫い部と前記股下縫い部とが交差する部分を有している、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１５】
請求項８に記載の着用物品であって、
前記伸縮抑制手段には、弾性部材が含まれていない、ことを特徴とする着用物品。
【請求項１６】
請求項２または３に記載の着用物品であって、
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、前記自然状態から前記左右方向に２００％に広げた状態で、前記係合領域の上端から前記着用物品の下端までの最大長さを、前記自然状態における前記係合領域の上端から前記着用物品の下端までの最大長さまで伸長させるのに要する力は、
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、前記自然状態から前記左右方向に２００％に広げるのに要する力の１/５以下である、ことを特徴とする着用物品。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、着用物品収容体、及び、着用物品に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、伸縮性を有するパンツ型の着用物品であって、尿等の排泄物を吸収する吸収パッドを股下部（クロッチ領域）に取り付けて使用するパッド併用型の着用物品が知られている。例えば、特許文献１にはパッドタイプの吸収体と併用して着用する、所謂ボクサーパンツ形状の着用物品が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】特開２０１５－１２８５８７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
編み生地等で構成され、高い伸縮性を有する着用物品では、例えば、着用時に着用者が脚を通すために胴回り開口を自然状態から左右に広げようとすると、製品が上下方向に収

縮してしまう（上下方向寸法が小さくなる）場合があった。このような場合、着用物品に設けられている係合領域の上下方向における位置が収縮の前後で変化することにより、吸収パッド側に設けられている係合領域との間で上下方向の位置ずれが生じ、着用物品に対して吸収パッドを係合させることが困難になるおそれがある。

【０００５】

本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、着用時に胴回り開口を広げたときでも、吸収パッドを係合させやすい着用物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するための主たる発明は、互いに交差する上下方向と左右方向と前後方向とを有し、前記上下方向及び前記左右方向に伸縮性を有し、吸収パッドと併用される着用物品と、前記着用物品を収容する収容部材と、を備えた、着用物品収容体であって、前記着用物品は、再利用可能であり、前記収容部材は、前記着用物品が前記吸収パッドと併用されることを想起させる表示を備え、前記着用物品は、編み生地で構成され、一対の脚回り開口を備えており、前記吸収パッドと係合する係合領域を有し、前記係合領域は、前記着用物品の前記前後方向の前側及び後側に少なくとも一か所ずつ設けられており、前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さの２倍以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品収容体である。

本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

【発明の効果】

【０００７】

本発明によれば、吸収パッドをしっかりと保持しつつ、着用者の身体に吸収パッドをフィットさせやすい着用物品を提供することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】着用物品１の概略斜視図である。

【図２】図２Ａは、自然状態において着用物品１を前後方向の前側から見たときの平面図である。図２Ｂは、自然状態において着用物品１を前後方向の後側から見たときの平面図である。

【図３】図３Ａ～図３Ｃは、着用物品１の製造方法について説明する図である。

【図４】吸収パッド１００の平面図、及び、断面図である。

【図５】従来型の着用物品２００（比較例）の概略平面図である。

【図６】図６Ａ～図６Ｃは、吸収パッド３００と併用する場合の着用物品２００の着用方法について説明する図である。

【図７】図７Ａ～図７Ｃは、吸収パッド１００と併用する場合の着用物品１の着用方法について説明する図である。

【図８】図８Ａ及び図８Ｂは、編み生地によって構成されたパンツ型の用物品を左右方向に伸長させた場合に生じる変形の様子について説明する図である。

【図９】図９Ａ及び図９Ｂは、着用物品１を自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの上下方向における収縮量について説明する図である。

【図１０】着用物品収容体９０の一例を表す概略斜視図である。

【図１１】着用物品１の前側の胴回り領域ＢＲと後側の胴回り領域ＢＲとを左右方向の両側端で切断し、上下方向に展開した状態を示す概略平面図である。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

【００１０】

（態様１）

互いに交差する上下方向と左右方向と前後方向とを有し、前記上下方向及び前記左右方向に伸縮性を有し、吸収パッドと併用される着用物品と、前記着用物品を収容する収容部材と、を備えた、着用物品収容体であって、前記着用物品は、再利用可能であり、前記収容部材は、前記着用物品が前記吸収パッドと併用されることを想起させる表示を備え、前記着用物品は、編み生地で構成され、一対の脚回り開口を備えており、前記吸収パッドと係合する係合領域を有し、前記係合領域は、前記着用物品の前記前後方向の前側及び後側に少なくとも一か所ずつ設けられており、前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さの２倍以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品収容体。

【００１１】

態様１の着用物品収容体によれば、当該収容体に収容された着用物品を着用する際に、胴回り領域を左右方向に広げた場合であっても、一対の脚回り開口の間の領域では上下方向における収縮が制限され、係合領域の上端から着用物品の下端までの長さが収縮し難くなる。したがって、着用物品の股下部まで吸収パッドを差し入れた状態において、着用物品に設けられた係合領域と吸収パッドに設けられた吸収パッド係合領域とが、上下方向において重複する部分（係合可能な部分）を有する確率が高くなる。したがって、吸収パッドを係合させやすい着用物品、及び、その収容体を提供することができる。

【００１２】

（態様２）

互いに交差する上下方向と左右方向と前後方向とを有し、編み生地で構成され、前記上下方向及び前記左右方向に伸縮性を有し、一対の脚回り開口を備え、吸収パッドと併用される着用物品であって、前記吸収パッドと係合する係合領域を有し、前記係合領域は、前記着用物品の前記前後方向の前側及び後側に少なくとも一か所ずつ設けられており、前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さの２倍以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、ことを特徴とする着用物品。

【００１３】

態様２の着用物品によれば、着用する際に胴回り領域を左右方向に広げた場合であっても、一対の脚回り開口の間の領域では上下方向における収縮が制限され、係合領域の上端から着用物品の下端までの長さが収縮し難くなる。したがって、着用物品の股下部まで吸収パッドを差し入れた状態において、着用物品に設けられた係合領域と吸収パッドに設けられた吸収パッド係合領域とが、上下方向において重複する部分（係合可能な部分）を有する確率が高くなる。したがって、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。

【００１４】

（態様３）

前記前後方向の前側及び後側の少なくとも一方において、前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、自然状態から前記左右方向に２００％に広げたときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さが、前記自然状態のときの、前記係合領域の上端から、前記着用物品の下端までの最大長さよりも、前記係合領域の前記上下方向における長さ以上短くならないように、前記一対の脚回り開口が形成されている、態様

２に記載の着用物品。
【００１５】
態様３の着用物品によれば、着用物品の係合領域と吸収パッド係合領域とが上下方向において重複する部分を有する確率をより高くすることができる。これにより、着用物品に対して吸収パッドをより係合させやすくすることができる。
【００１６】
（態様４）
自然状態において、前記脚回り開口の上端は、前記着用物品の前記左右方向の中央位置における下端よりも上側に位置している、態様２または３に記載の着用物品。
【００１７】
態様４の着用物品によれば、脚回り開口が斜めに形成されることで、着用物品のうち、脚回り開口の上端よりも上方に形成される胴回り領域が上下方向に占める割合が小さくなる。そして、上下方向に収縮しやすい胴回り領域の幅が狭くなることにより、ボクサーパンツ型の着用物品等と比較して、着用物品全体として上下方向の収縮量が小さくなる。したがって、着用物品の係合領域と吸収パッド係合領域とが上下に重複しやすく、着用物品に対して吸収パッドをより係合させやすくすることができる。
【００１８】
（態様５）
前記上下方向において前記脚回り開口の上端と前記着用物品の上端との間に位置する胴回り領域を有し、前記係合領域は前記胴回り領域内に設けられており、前記上下方向において、前記係合領域の上端位置は、前記胴回り領域の中央位置よりも下側にある、態様２～４の何れかに記載の着用物品。
【００１９】
態様５の着用物品によれば、係合領域の上端が、胴回り領域の中央位置よりも下側に位置していることにより、逆の場合と比較して、係合領域の上端から着用物品の下端までの距離が短くなる。これにより、着用物品の上下方向の収縮に伴う係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。
【００２０】
（態様６）
前記係合領域を前記上下方向及び前記左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力は、前記編み生地を前記上下方向及び前記左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力よりも大きい、態様２～５の何れかに記載の着用物品。
【００２１】
態様６の着用物品によれば、左右方向に引っ張ったときに、係合領域よりも上側の領域における伸長の影響が、係合領域より下側の領域に及びにくくなり、当該下側の領域における上下方向の収縮が抑制されやすくなる。また、係合領域自体が上下に伸縮し難いため、全体として着用物品の上下方向における収縮が抑制されやすくなる。これにより、係合領域が上下方向に位置ずれし難くなり、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。
【００２２】
（態様７）
前記上下方向において前記脚回り開口の上端と前記着用物品の下端との間、且つ、前記左右方向において一対の前記脚回り開口の内側端同士の間に位置するクロッチ領域を有し、前記左右方向において、前記係合領域と前記クロッチ領域とが重複する部分を有する、態様２～６の何れかに記載の着用物品。
【００２３】
態様７の着用物品によれば、係合領域と重複する部分においてクロッチ領域の左右方向への伸長が抑制されやすくなる。したがって、クロッチ領域の上下方向における収縮が抑制され、係合領域が上下方向に位置ずれし難くなる。これにより、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。

【００２４】
（態様８）
前記クロッチ領域に、前記上下方向に所定の長さを有する伸縮抑制手段が設けられている、態様２～７の何れかに記載の着用物品。
【００２５】
態様８の着用物品によれば、着用物品が左右方向に広げられた場合であっても、クロッチ領域のうち伸縮抑制手段が設けられた部分が上下方向に収縮し難くなる。これにより、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。
【００２６】
（態様９）
前記伸縮抑制手段は、前記上下方向において、前記クロッチ領域から当該クロッチ領域の上端よりも上側まで連続している、態様２～８の何れかに記載の着用物品。
【００２７】
態様９の着用物品によれば、上下方向の広い範囲（クロッチ領域～胴回り領域）に亘って、上下方向の収縮が抑制されやすくなる。これにより、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品に係合させやすくすることができる。
【００２８】
（態様１０）
前記伸縮抑制手段は、前記左右方向の中央部に設けられた中央伸縮抑制部を有する、態様２～９の何れかに記載の着用物品。
【００２９】
態様１０の着用物品によれば、上下方向の収縮が最も大きくなりやすい左右方向の中央部に中央伸縮抑制部が設けられていることにより、左右方向の中央部における過度な収縮が抑制される。したがって、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００３０】
（態様１１）
前記伸縮抑制手段は、前記中央伸縮抑制部の前記左右方向の両側に一対のサイド伸縮抑制部を有する、態様２～１０の何れかに記載の着用物品。
【００３１】
態様１１の着用物品によれば、着用物品を左右方向の両側に広げようとしたときに、左右方向の両側部においても上下方向の収縮が抑制されやすくなる。したがって、着用物品の左右方向における広い範囲で上下方向の収縮が抑制されやすくなり、係合領域の上下方向における位置ずれを小さくすることができる。これにより、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００３２】
（態様１２）
前記一対の脚回り開口のそれぞれの周縁に沿ったかがり縫い部を有する、態様２～１１の何れかに記載の着用物品。
【００３３】
態様１２の着用物品によれば、かがり縫い部によって脚回り開口の周縁の剛性が高められることにより、クロッチ領域の両側部における伸縮性が弱められる。したがって、クロッチ領域の両側部が上下方向に収縮し難くなり、係合領域の上下方向における位置ずれを小さくすることができる。これにより、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００３４】
（態様１３）
前記上下方向の下端部に、前記左右方向に所定の長さを有する股下縫い部が設けられている、態様２～１２の何れかに記載の着用物品。

【００３５】
態様１３の着用物品によれば、股下縫い部によって、クロッチ領域の下端部における剛性が高められ、左右方向の伸縮が抑制される。したがって、着用物品が左右方向の両側に広げられた場合であっても、クロッチ領域は左右方向に伸長し難く、クロッチ領域の上下方向の収縮も抑制されやすくなる。これにより、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００３６】
（態様１４）
前記かがり縫い部と前記股下縫い部とが交差する部分を有している、態様２～１３の何れかに記載の着用物品。
【００３７】
態様１４の着用物品によれば、股下縫い部と脚回りかがり縫い部とが連結して骨格の様に機能することにより、クロッチ領域の下端部及び両側部の剛性が高められ、クロッチ領域全体として過度な伸縮が抑制されやすくなる。これにより、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００３８】
（態様１５）
前記伸縮抑制手段には、弾性部材が含まれていない、態様２～１４の何れかに記載の着用物品。
【００３９】
態様１５の着用物品によれば、少なくとも自然状態において、着用物品が上下方向に収縮していないため、着用物品を左右方向に広げたときに上下方向の収縮量が過度に大きくなってしまうことを抑制しやすい。したがって、係合領域の上下方向における位置ずれが小さくなり、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００４０】
（態様１６）
前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、前記自然状態から前記左右方向に２００％に広げた状態で、前記係合領域の上端から前記着用物品の下端までの最大長さを、前記自然状態における前記係合領域の上端から前記着用物品の下端までの最大長さまで伸長させるのに要する力は、前記一対の脚回り開口の上端よりも上方の領域を、前記自然状態から前記左右方向に２００％に広げるのに要する力の１/５以下である、態様２～１５の何れかに記載の着用物品。
【００４１】
態様１６の着用物品によれば、左右方向に広げて吸収パッドを差し入れる際に、着用物品の上下方向の寸法が収縮していたとしても、吸収パッドを股下側に軽く押し込むことで、着用物品の上下方向寸法を元の寸法に簡単に戻すことができる。したがって、逆の場合と比較して、係合領域の上端から着用物品の下端までの長さを、元の状態に戻しやすくすることができる。したがって、着用物品の係合領域と吸収パッド係合領域との上下方向における位置ずれが生じ難くなり、吸収パッドを着用物品により係合させやすくすることができる。
【００４２】
（態様１７）
着用物品を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンを９０重量％以上含んでいる、態様２～１６の何れかに記載の着用物品。
【００４３】
態様１７の着用物品によれば、ポリエステル及びポリエチレンは、綿と比較して伸度が高い素材であり、そのような素材を多く含むことで、より伸び易さを実現できる。また、ポリエステル及びポリエチレンは、非吸水性であり、且つ、高い速乾性を有する素材であるため、着用物品の乾燥性が向上する。
【００４４】

（態様１８）
着用物品を構成している生地は、吸水性素材を含んでいない、態様２～１７の何れかに記載の着用物品。
【００４５】
態様１８着用物品によれば、吸水性素材を含まないことで、生地が水を含みにくくなる。それにより、洗濯後の乾燥時間を短縮でき、着用物品の乾燥性を向上させる。
【００４６】
（態様１９）
着用物品を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンよりも伸縮性が高い素材を１０重量％未満含んでいる、態様１７又は１８に記載の着用物品。
【００４７】
態様１９の着用物品によれば、着用物品を構成している生地のうち、９０重量％以上はポリエステル又はポリエチレンであるので、伸縮性がより高い素材が残りの１０重量％未満に含まれることで、良好な乾燥性を担保しつつ、伸縮性の向上を実現できる。
【００４８】
（態様２０）
着用物品を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンよりも伸縮性が高い素材を含む領域と含まない領域とを有する、態様２～１９の何れかに記載の着用物品。
【００４９】
態様２０の着用物品によれば、特にフィット性が必要なところに伸縮性の高い素材を配置する（すなわち、より伸縮性が高い素材を含む領域を形成する）ことで、着用物品の一部に限定してフィット性をより高めることができ、機能性が向上する。また、一部のフィット性を高めるだけでなく、例えば、より伸縮性が高い素材を含む領域を、間隔を空けて複数箇所設ける等により、着用物品の全体としてのフィット感を向上させることもできる。
【００５０】
（態様２１）
係合領域には、本体部を構成する編み生地とは異なる別体のシート部材が設けられており、当該別体のシート部材は、ポリエチレン又はポリエステルで構成されている、態様２～２０の何れかに記載の着用物品。
【００５１】
態様２１の着用物品によれば、別体のシート部材は本体部に接合されるため、本体部と同様に、別体のシート部材も高い速乾性を有する素材によって構成されていることで、着用物品の乾燥性が向上する。
【００５２】
（態様２２）
別体のシート部材は、当該別体のシート部材の周縁部に沿って糸で縫い付けることにより、着用物品を構成している生地に接合される、態様２１に記載の着用物品。
【００５３】
態様２２の着用物品によれば、糸で縫われた周縁部よりも内側の領域は、生地と別体のシート部材とが厚さ方向に密着（接合）しておらず、別体のシート部材と生地との間に空間が形成されている。つまり、別体のシート部材全体が生地に接合されている状態ではないため、全体が接合されている場合と比較すると、別体のシート部材のうち生地と接する面において空気と接触する面積が広くなり、水分を蒸発させやすくなる。それにより、乾燥性が向上する。
【００５４】
（態様２３）
厚さ方向に見たときに、別体のシート部材と伸縮抑制部とが重複する部分を有する、態様２１又は２２に記載の着用物品。
【００５５】
態様２３の着用物品によれば、伸縮抑制部が設けられていることにより、着用物品を構

成している生地に収縮力の変化が生じ、生地の肌側面と別体のシート部材の非肌側面との間に、空間がより形成されやすくなる。そのような空間から空気が逃げやすくなることで、乾燥性が向上する。

【００５６】

（態様２４）

別体のシート部材の大きさは、上下方向の長さが５０ｍｍ以下、且つ、左右方向の長さが１５０ｍｍ以下である、態様２１～２３の何れかに記載の着用物品。

【００５７】

態様２４の着用物品によれば、別体のシート部材が大きくなりすぎると、当該シート部材の部分が乾燥しにくくなるおそれがあるが、上述した範囲内の大きさとすることで、生地に対して十分な係合力を維持できる面積を確保しつつ、乾燥しやすくなる。

【００５８】

（態様２５）

別体のシート部材の厚さは、３ｍｍ以下である、態様２１～２４の何れかに記載の着用物品。

【００５９】

態様２５の着用物品によれば、生地に対して十分な係合力を維持できる厚みを確保しつつ、厚すぎないことで、乾燥しやすさも維持できる。

【００６０】

（態様２６）

着用物品の前側の胴回り領域と後側の胴回り領域とを左右方向の両側端で切断し、上下方向に展開した状態において、上下方向において前側係合領域の上端と後側係合領域の上端との間、且つ、左右方向において前側係合領域及び後側係合領域の最も一方側の端と前側係合領域及び後側係合領域の最も他方側の端との間の領域Ｓ１の面積は、それ以外の領域Ｓ２の面積よりも小さい、態様２～２５の何れかに記載の着用物品。

【００６１】

態様２６の着用物品によれば、着用物品を構成している生地のうち領域Ｓ１は、吸収パッドの装着時に吸収パッドによって覆われる領域である。そのため、仮に、着用物品の洗濯後の乾燥が若干不十分であったり、別の要因で吸収パッドを装着後に着用物品が濡れることがあった場合に、領域Ｓ１は、吸収パッドによって覆われていることでその後の乾燥性が低くなり易いが、着用物品を構成する生地において、領域Ｓ１の面積が領域Ｓ２の面積よりも小さいことにより、逆の場合と比較して、着用物品の全体の乾燥性の低下を抑制しやすい。

【００６２】

（態様２７）

着用物品の前側の胴回り領域と後側の胴回り領域とを左右方向の両側端で切断し、上下方向に展開した状態において、上下方向において前側係合領域の上端と後側係合領域の上端との間、且つ、左右方向において前側係合領域及び後側係合領域の最も一方側の端と前側係合領域及び後側係合領域の最も他方側の端との間の領域Ｓ１の面積は、それ以外の領域Ｓ２の面積よりも大きい、態様２～２５の何れかに記載の着用物品。

【００６３】

態様２７の着用物品によれば、着用物品の洗濯後の乾燥が若干不十分であっても、領域Ｓ１は、吸収パッドによって覆われるため肌が濡れにくく、着用感が悪化しにくい。

【００６４】

＝＝＝実施形態＝＝＝

本発明の実施形態に係る着用物品の一例として、尿等の排泄物を吸収する吸収パッド１００を内部に取り付けて使用することが可能な、パッド併用タイプのパンツ型着用物品１（以下では、単に「着用物品１」とも呼ぶ）について説明する。

【００６５】

＜着用物品１の基本的構成＞

図１は、本実施形態に係る着用物品１の概略斜視図である。着用物品１は、図１に示すパンツ型状態において、互いに直交する「上下方向」と「左右方向」と「前後方向」とを有している。上下方向のうち、着用者が着用物品１を着用した状態で着用者の胴側となる方を「上側」とし、着用者の股下側となる方を「下側」とする。また、前後方向のうち、着用状態で着用者の腹側となる方を「前側」とし、着用者の背側となる方を「後側」とする。また、着用物品１を構成している各資材（シート部材）は、各々「厚さ方向」を有している。厚さ方向のうち、着用者が着用物品１を着用した状態で着用者の肌に近い側を「肌側」とし、その反対側を「非肌側」とする。

【００６６】

本実施形態の着用物品１は、上下方向の上側に設けられた胴回り開口ＢＨと、上下方向の下側且つ左右方向の両側に設けられた一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨを備えたパンツ型に形成されている。パンツ型の内側には、吸収パッド１００を着脱自在に取り付け可能であり、吸収パッド１００を交換することで、着用物品１自体は繰り返して使用（着用）することができる。例えば、吸収パッド１００が取り付けられた着用物品１をユーザー（使用者）が着用した状態で尿等の排泄が行われた場合、排泄物を吸収して汚れた吸収パッド１００を着用物品１から取り外して新しい吸収パッド１００に交換することで、着用物品１を再利用することが可能である。また、着用物品１は洗濯することも可能であり、長期間（例えば２週間以上）にわたって衛生的に使用することができる。

【００６７】

図２Ａは、自然状態において着用物品１を前後方向の前側から見たときの平面図である。図２Ｂは、自然状態において着用物品１を前後方向の後側から見たときの平面図である。ここで、「自然状態」とは、着用物品１を所定時間放置したときの状態である。例えば、折り畳まれて収容されている着用物品１をパッケージから取り出した後、歪が生じないように静かに広げて机等の平面に置く。そして、このような平面平置きで５分間経過させ、着用物品１の表面にほとんど皺が残らないようにした状態を自然状態とする。

【００６８】

着用物品１は、本体部１０と、伸縮抑制部２０と、係合領域３０とを有している。本体部１０は、着用物品１の外装を構成する部位であり、伸縮性を有するシート部材によって形成されている。本実施形態において、本体部１０を形成するシート部材は、「織り生地」若しくは「編み生地」によって構成されており、上下方向及び左右方向にそれぞれ伸縮性を有している。なお、「織り生地」とは、平行に並べた多数のたて糸に対して、よこ糸を直角に交錯させて平面状に構成した生地であり、例えば「布帛」と呼ばれる生地を例示できる。織り生地では、伸縮性の高い糸を用いたり、糸の密度を変更したりすることで、伸縮性を有する織り生地を形成することができる。一方、「編み生地」とは、糸をループにして、このループに他のループを連結させて平面状に構成した生地であり、例えば「ニット」と呼ばれる生地を例示できる。編み生地は多数のループを連結させることで構成されているため、各々のループを変形させることにより、小さな力でも大きく伸縮させることができる。以下では、編み生地を用いて本体部１０（着用物品１）が構成されているものとして説明を行う。

【００６９】

本体部１０は、上下方向に沿って筒状に編まれた、所謂丸編み生地によって構成されている。筒状の本体部１０の上端部は、一部が上下方向の上側から下側に折り返されることで、胴回り折り返し部１１が形成されている。この胴回り折り返し部１１によって、丸編み生地の上端部（すなわち、胴回り開口ＢＨ）における糸のほつれが抑制される。さらに、胴回り折り返し部１１には、他の部分よりも伸縮し難い糸が編み込まれている。これにより、胴回り開口ＢＨの周縁に沿った収縮力が強くなり、着用物品１の着用時において、胴回り開口ＢＨのずれ落ちが抑制され、フィット性を高めることができる。なお、丸編み生地の上端部を折り返すのではなく、当該上端部に別体のシート部材を積層させ接合することによって胴回り開口ＢＨの周縁に沿って大きな収縮力が作用するようにしても良い。

【００７０】

一方、本体部１０の下端部では、丸編み生地の前側と後側とが縫い合わされた股下縫い部１２が形成されている。股下縫い部１２によって、本体部１０の下端部が接合されることで、筒状の丸編み生地が、一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨを有するパンツ型に形成される（後述する図３参照）。本実施形態において、股下縫い部１２は、着用物品１の上下方向における最も下側に位置している（図２Ａ及び図２Ｂ参照）。

【００７１】

一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨは、本体部１０の一部を切断することによって形成される（図３参照）。そして、各々の脚回り開口ＬＨ，ＬＨの周縁部には、脚回りかがり縫い部１３が形成されている。脚回りかがり縫い部１３は、脚回り開口ＬＨの周縁に沿って、編み生地の端を糸で巻き込むように縫うことで形成され、これにより、脚回り開口ＬＨの切断箇所における糸のほつれが抑制される。また、脚回りかがり縫い部１３が形成されることによって、着用時における脚回り開口ＬＨのフィット性が高められ、尿等の排泄物の横漏れを抑制しやすくすることができる。

【００７２】

図２Ａ及び図２Ｂに示されるように、自然状態の着用物品１の上下方向において、脚回り開口ＬＨの上端をＬＨｔとする。上端ＬＨｔは、左右方向において、最も外側の端よりもやや内側に位置している。同様に、自然状態の着用物品１の上下方向において、脚回り開口ＬＨの下端をＬＨｂとする。下端ＬＨｂは、着用物品１の上下方向における最も下側、且つ、脚回り開口ＬＨの左右方向における最も内側に位置している。

【００７３】

着用物品１で、上下方向において脚回り開口ＬＨの上端ＬＨｔと下端ＬＨｂ（すなわち、着用物品１の下端）との間、且つ、左右方向において一対の脚回り開口ＬＨの下端ＬＨｂ，ＬＨｂの間（すなわち、脚回り開口ＬＨの内側端同士の間）の斜線部で示される領域をクロッチ領域ＣＲと定義する。クロッチ領域ＣＲは、着用物品１の着用時に、主に着用者（ユーザー）の股間部に位置する領域であり、吸収パッド１００を取り付けた際には、該吸収パッド１００の少なくとも一部を保持する領域でもある。また、着用物品１で、上下方向において脚回り開口ＬＨの上端ＬＨｔと着用物品１の上端との間に位置する領域を胴回り領域ＢＲと定義する。胴回り領域ＢＲは、着用物品１の着用時に、主に着用者（ユーザー）の胴回り部（腹部及び臀部～腰部）に位置する領域である。

【００７４】

伸縮抑制部２０は、着用物品１の上下方向における伸縮を抑制する伸縮抑制手段としての機能を有する部位である。本実施形態では、上下方向に所定の長さを有する複数の伸縮抑制部２０が着用物品１の本体部１０の所定の位置に設けられている。具体的には、着用物品１（本体部１０）の前後方向の前側において、左右方向の中央部に前側中央伸縮抑制部２１が設けられ、前側中央伸縮抑制部２１の左右方向両側に一対の前側サイド伸縮抑制部２３，２３（両側部伸縮抑制手段に相当）が設けられている（図２Ａ参照）。同様に、着用物品１（本体部１０）の前後方向の後側において、左右方向の中央部に後側中央伸縮抑制部２２が設けられ、後側中央伸縮抑制部２２の左右方向両側に一対の後側サイド伸縮抑制部２４，２４（両側部伸縮抑制手段）が設けられている（図２Ｂ参照）。

【００７５】

着用者（ユーザー）が着用物品１を着用する際には、一対の脚回り開口ＬＨに脚を通した後、胴回り領域ＢＲを掴んで股間部に引き上げる動作が行われるが、上述したように、本体部１０は伸縮性を有する編み生地（若しくは織り生地）によって形成されている。そのため、着用物品１を引き上げる動作において本体部１０が上下方向に過度に伸長してしまうと、着用物品１を引き上げ難くなるおそれがある。これに対して、本実施形態の着用物品１では、伸縮抑制部２０が設けられた部分において、本体部１０の上下方向の伸縮（伸長）が抑制されるため、着用物品１を上方に引き上やすくすることができる。

【００７６】

伸縮抑制部２０（伸縮抑制手段）は、本体部１０を構成している編み生地に対して、上下方向に沿って当該編み生地の伸縮性を低減する加工が施されることによって実現される

。例えば、本体部１０を構成する編み生地の所定の領域に、伸縮性の低い糸を縫い込む（所謂「ステッチ」）加工を行うことで上下方向における伸縮性を低減することができる。また、編み生地を編む際に、所定の部位において編み方のパターンを変更したり、糸の伸縮性を変更したりすることで、編み生地中の一部で伸縮性を低減するようにしても良い。その他、編み生地中の所定の箇所に圧搾加工（エンボス加工等）を施すことで伸縮性を低減させるのであっても良い。

【００７７】

係合領域３０は、着用物品１に対して吸収パッド１００を着脱自在に取り付けるための領域であり、本体部１０の厚さ方向の肌側に設けられている。本実施形態では、前後方向の前側において、胴回り領域ＢＲの肌側面に矩形状の前側係合領域３１が設けられ（図２Ａ参照）、前後方向の後側において、胴回り領域ＢＲの肌側面に矩形状の後側係合領域３２が設けられている。

【００７８】

着用物品１に設けられている係合領域３０と、吸収パッド１００に設けられる吸収パッド係合領域１２０（後述する図４参照）とを互いに係合させることによって、着用物品１の内側（肌側）に吸収パッド１００を取り付けて保持することができる。また、係合領域３０は、ユーザーが着用物品１に対して吸収パッド１００を取り付ける際の、基準（つまり目印）としての機能も有し、当該係合領域３０を視認することにより、着用物品１の正しい位置に吸収パッド１００を取り付けることが可能となる。

【００７９】

本実施形態において、係合領域３０には、本体部１０を構成する編み生地とは異なる別体のシート部材が設けられることが好ましい。別体のシート部材としては、例えば、基材シートの表面に係合用の突出部（オス材、フック）若しくは被係合用の突出部（メス材、ループ）が複数設けられた公知の面ファスナーを用いることができる。なお、視認性を高めるために、面ファスナーの色は、本体部１０を構成する編み生地とは異なる色を有していることがより好ましい。但し、係合領域３０として、必ずしも別体のシート部材が設けられている必要は無く、着用物品１の肌側面において、吸収パッド係合領域１２０を着脱自在に係合させることが可能な領域が形成されていれば良い。例えば、本体部１０を構成する編み生地自体が吸収パッド係合領域１２０と着脱自在に係合可能である場合には、本体部１０の肌側面の所定の領域が、本体部１０とは異なる色のインクで印刷されることによって係合領域３０が形成されるのであっても良い。

【００８０】

ここで、着用物品１の製造方法の概略について説明する。図３Ａ～図３Ｃは、着用物品１の製造方法について説明する図である。同図３では、着用物品１が、上述した「編み生地」によって形成される場合について説明する。

【００８１】

先ず、図３Ａに示されるように、糸を円形にぐるぐると編むことによって筒状の編み生地１０Ａ（所謂「丸編み」）を形成する。このとき、円筒状に丸編みされた生地１０Ａの中心軸の方向（図１の上下方向に相当）に沿って、伸縮抑制部２０（２１～２４）も形成される。伸縮抑制部２０は、上述したように、編みのパターンを変更することや、異なる糸を縫い込むこと等の加工を施すことによって形成される。なお、丸編み生地１０Ａの形成工程（図３Ａ）とは異なる工程において伸縮抑制部２０が形成されるのであっても良い。例えば、丸編み生地１０Ａが形成された後で、別途伸縮抑制部２０（伸縮抑制手段）を形成するための加工が施されるのであっても良い。

【００８２】

次いで、丸編み生地１０Ａを上下方向（軸方向）の所定の位置で切断して、図３Ｂのように、個々の着用物品１を構成する本体部１０を切り出す。ここでは、上下方向における位置Ｃ１及び位置Ｃ２にて丸編み生地１０Ａが切断される（図３Ａ参照）。切断位置Ｃ１が本体部１０の上下方向の上側になり、切断位置Ｃ２が本体部１０上下方向の下側になる。また、本体部１０から脚回り開口ＬＨとなる部分が切断される。図３Ｂでは、筒状の本

体部１０の下端部において、左右方向の両側部が斜めに切断されることにより、一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨとなる部分が形成される。

【００８３】

次いで、図３Ｃのように、筒状の本体部１０の上下方向の上端部が折り返され、胴回り折り返し部１１が形成される。また、筒状の本体部１０の上下方向の下端部において、前側の下端縁１２ｆと、後側の下端縁１２ｂとが前後に縫い合わされて股下縫い部１２が形成される。これにより、筒状の本体部１０がパンツ型に形成される。そして、切断された脚回り開口ＬＨの周縁に沿ってかがり縫いが行われ、脚回りかがり縫い部１３が形成される。最後に、本体部１０の内側（肌側）に、別体のシート部材（例えば面ファスナー）が取り付けられる等により、係合領域３０（３１，３２）が形成される。これにより、図１や図２で説明した着用物品１が形成される。なお、図３Ｃで説明した加工が実施される順番は変更されても良い。

【００８４】

＜着用物品１の伸縮性について＞

着用物品１は、上下方向及び左右方向に伸縮性を有することを説明したが、具体的には、本体部１０を構成している編み生地からサンプル片を切り出して引張試験を行った際に、以下の条件を満たしたときに、伸縮性を有するものとする。すなわち、５０ｍｍ×２００ｍｍのサンプル片を、それぞれ上下方向及び左右方向に５Ｎの力で引っ張ったときの当該サンプル片の伸び率の最大値が２００％以上である場合に、伸縮性を有するものとする。

【００８５】

引張試験は、例えば下記のようにして行うことができる。先ず、着用物品１の本体部１０から、上下方向に２２０ｍｍ、左右方向に５０ｍｍの長さを有する矩形状のサンプル片を切り出す。なお、サンプル片の上下方向において、２２０ｍｍのうち両端部の１０ｍｍ分は、それぞれ引張試験機のチャックの掴みしろである。また、サンプル片を切り出す際には、伸縮抑制部２０及び係合領域３０が含まれないようにすることが望ましい。次に、切り出したサンプル片の上下方向の両端部１０ｍｍｍずつを公知の引っ張り試験器（例えば、インストロン社製万能材料試験機）のチャックで挟み込む。このとき、引っ張り試験器のチャック間の間隔$G_0$＝２００ｍｍとする。この状態からチャック間の間隔を開く方向に２００ｍｍ／ｍｉｎ程度の引っ張り速度でサンプル片を引っ張って伸長させ、引張試験による引っ張り力（力の大きさ）が５Ｎとなったときのチャック間の間隔$G_1$（ｍｍ）を測定する。そして、サンプル片の引張前の長さに対する引っ張り後の長さ（＝$G_1$／$G_0$）の値を算出し、伸び率として記録する。この試験を複数回繰り返し、伸び率（$G_1$／$G_0$）の最大値を求める。その結果、伸び率（$G_1$／$G_0$）の最大値が２００％以上であれば、着用物品１（本体部１０）を構成している生地は、上下方向において伸縮性を有しているものとする。なお、チャックの掴みしろの大きさは適宜変更可能である。

【００８６】

同様に、着用物品１の本体部１０から、左右方向に２２０ｍｍ、上下方向に５０ｍｍの長さを有する矩形状のサンプル片を切り出して、上記の手順に従って左右方向の引張試験を行う。そして、伸び率が２００％以上であれば、着用物品１（本体部１０）を構成している生地は、左右方向において伸縮性を有しているものとする。なお、着用物品１から左右方向に長いサンプル片を切り出す際には、伸縮抑制部２０が含まれても良いものとする。伸縮抑制部２０は、主に上下方向における伸縮性を低減させる機能を有しており、左右方向における伸縮性の測定には大きな影響を及ぼさないためである。

【００８７】

＜吸収パッド１００の基本構成＞

図４は、吸収パッド１００の平面図、及び、断面図である。吸収パッド１００は、平面視略長方形状であり、互いに直交する縦方向と幅方向と厚さ方向とを有する。縦方向は、着用物品１に取り付ける際に、着用物品１の上下方向（及び前後方向）に沿う方向であり、横方向は、着用物品１に取り付ける際に、着用物品１の左右方向に沿う方向である。縦方向の前側は、吸収パッド１００を着用物品１に取り付けたときに着用者の腹側（着用物

品１の前後方向の前側）に位置する側であり、縦方向の後側は、吸収パッド１００を着用物品１に取り付けたときに着用者の背側（着用物品１の前後方向の後側）に位置する側であるものとする。

【００８８】

吸収パッド１００は、吸収体１１０と、吸収体１１０の肌側に配置されたトップシート１１１と、吸収体１１０の非肌側に配置されたバックシート１１２と、トップシート１１１よりも肌側において、左右方向の両側に一対設けられたサイドシート１１５，１１５を有している。また、着用物品１の係合領域３０と係合するための吸収パッド係合領域１２０を有している。

【００８９】

吸収体１１０は、高分子吸収剤（吸収性ポリマー：super absorbent polymer、「ＳＡＰ」とも言う）と、パルプ繊維等の液体吸収性繊維とを有し、本実施形態では、図４の破線で示されるように縦方向の中央部が左右方向の内側に窪んだ、略砂時計形状に形成されている。ＳＡＰを含有する液体吸収性繊維は、液透過性のコアラップシート（不図示）で覆われていても良い。また、吸収体１１０の構成は上記に限定されず、例えば、親水性のシートにＳＡＰ層を付着させたＳＡＰシートや、液体吸収性繊維をエアレイド法によってシート状に成形したエアレイドシート等を例示できる。

【００９０】

トップシート１１１は、吸収体１１０の肌側に配置された液透過性のシート部材であり、吸収パッド１００の使用時には、装着者の肌や排泄口と直接接触する部材である。そのため、トップシート１１１はなるべく柔軟で肌当たりが柔らかいシート部材であることが望ましい。本実施形態のトップシート１１１を構成するシート部材としては、例えば、エアスルー不織布等を例示できる。また、吸収体１１０とトップシート１１１との厚さ方向に間に、トップシート１１１と略同様に液透過性のセカンドシート（図４では不図示）が設けられていても良い。

【００９１】

バックシート１１２は、吸収パッド１００の厚さ方向において吸収体１１０よりも非肌側に配置された液不透過性且つ通気性のシート部材である。このバックシート１１２が設けられていることにより、吸収パッド１００によって吸収された尿等の排泄液が、厚さ方向の非肌側に浸透してしまうことが抑制される。したがって、吸収パッド１００を着用物品１の肌側に取り付けて使用する際に、吸収パッド１００によって吸収された尿等の排泄液が、非肌側の着用物品１に浸透してしまうことを抑制できる。本実施形態のバックシート１１２を構成するシート部材としては、例えば、ポリエチレンやポリプロピレンの樹脂フィルム等を例示できる。

【００９２】

サイドシート１１５は、吸収パッド１００の肌側面における横方向の両側部を構成する部材である。吸収パッド１００の使用時には、サイドシート１１５も着用者の肌と直接接触する可能性が高いため、トップシート１１１と同様に、なるべく柔軟なシート部材であることが望ましい。本実施形態のサイドシート１１５を構成するシート部材としては、例えば、エアスルー不織布等を例示できる。

【００９３】

また、一対のサイドシート１１５，１１５の横方向における内側端部には、糸ゴム等の吸収パッド弾性部材１１６がそれぞれ縦方向に沿って伸長された状態で設けられている。サイドシート１１５の横方向における内側端は、図４のＡ－Ａ断面図に示されるように横方向の外側に折り返されており、当該折り返された部分に挟み込まれるようにして吸収パッド弾性部材１１６が取り付けられている。吸収パッド１００の使用時には、吸収パッド弾性部材１１６が発現する伸縮性に基づいて、一対のサイドシート１１５，１１５の内側端部が厚さ方向の肌側に起立して、防漏壁（立体ギャザー）として機能することにより、尿等の横漏れを抑制することができる。

【００９４】

吸収パッド係合領域１２０は、バックシート１１２の非肌側面に設けられ、着用物品１の係合領域３０と着脱自在に係合する部位であり、縦方向の前側端部に配置される前側吸収パッド係合領域１２１と、縦方向の後側端部に配置される後側吸収パッド係合領域１２２と、を有している。吸収パッド係合領域１２０には、例えば、着用物品１の係合領域３０に対応する面ファスナー等のシート部材が設けられる。また、上述した係合領域３０と同様の理由により、ユーザーが係合位置を視認しやすいよう、吸収パッド係合領域１２０はバックシート１１２の色とは異なる色で形成されていることが好ましい。

【００９５】

吸収パッド１００を着用物品１に取り付けて使用する際には、吸収パッド１００の縦方向における中央位置ＣＬにて、吸収パッド１００の肌側面が内側となるように二つ折りにする。そして、二つ折りにした吸収パッド１００を着用物品１の胴回り開口ＢＨの上側から差し入れ、吸収パッド１００の縦方向における中央位置ＣＬが、着用物品１の最下端部（股下縫い部１２と重なる位置）に配置されるように調整する。この状態で、前側吸収パッド係合領域１２１を着用物品１の前側係合領域３１と係合させ、後側吸収パッド係合領域１２２を着用物品１の後側係合領域３２と係合させる。なお、吸収パッド係合領域１２０の縦方向（上下方向）における位置は、吸収パッド１００を着用物品１の内側に差し入れた状態において、着用物品１の係合領域３０と重複するように、予め調整されているため、係合領域３０，１２０同士を簡単に係合させることができる。このようにすることで、着用物品１に対して吸収パッド１００を正しく取り付けることができる。

【００９６】

＜吸収パッド１００を併用する際の着用物品１の着用動作について＞

続いて、吸収パッド１００を併用する際の着用物品１の具体的な着用動作について説明する。

【００９７】

先ず、比較例として、従来型の着用物品２００において吸収パッド３００を併用して着用する場合の動作について説明する。図５は、従来型の着用物品２００（比較例）の概略平面図である。図６Ａ～図６Ｃは、着用物品２００と吸収パッド３００とを併用する場合の着用物品２００の着用方法について説明する図である。

【００９８】

図５に示される比較例の着用物品２００は、胴回り開口ＢＨと一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨを有し、ある程度の伸縮性を備えたパンツ型着用物品であるが、本実施形態の着用物品１とは異なり、脚回り開口ＬＨ，ＬＨが股下部（着用物品２００の左右方向中央位置における下端）よりも下側に突き出た形状の、所謂「ボクサーパンツ」型である。そして、着用物品２００には、着用物品１の伸縮抑制部２０や係合領域３０に相当する構成が設けられていない。また、吸収パッド３００は、図４で説明した吸収パッド１００と略同様の構成を有するが、吸収パッド係合領域１２０に相当する領域は設けられていない。

【００９９】

比較例において、着用物品２００と吸収パッド３００とを併用する場合、先ず、図６Ａのように、着用者の股下部に、吸収パッド３００をあてがった状態で、着用物品２００の脚回り開口ＬＨ，ＬＨに着用者の両脚を通して、膝上辺りまで引き上げる。

【０１００】

次いで、図６Ｂのように、片方の手で吸収パッド３００を押さえて身体からずれないようにしながら、もう片方の手で着用物品２００を掴んで、上方へ引っ張り上げる動作が行われる。着用物品２００は、図５で説明したようにボクサーパンツ型であることから、下側に突き出た脚回り開口ＬＨと着用者の脚との間で摩擦力が作用して、着用者の脚に脚回り開口ＬＨ（裾）が引っ掛かりやすい。そのため、着用物品２００を引っ張り上げようとすると、図６Ｂのように引っ張られた部分が上下方向に大きく伸長してしまい、着用物品２００の全体を片手で股下部まで引っ張り上げるのは困難である。そのため、引っ張り上げる手や引っ張る位置を適宜変更しながら、時間をかけて着用物品２００を股下部まで引っ張り上げる必要があり、装着性に問題が生じていた。また、引っ張り上げる過程で、両

手が塞がっているため、壁や椅子等に手をかけて着用者自身の身体を支えることが難しく、安全の確保に十分注意する必要がある。

【０１０１】

着用物品２００が着用者の股下部付近まで引っ張り上げられた後、図６Ｃのように、股下部にしっかりとフィットさせるために着用物品２００及び吸収パッド３００の位置を調整する動作が行われる。このとき、着用物品２００が前後左右上下に引っ張られるのに応じて、吸収パッド３００の位置がずれてしまう場合がある。例えば、着用物品２００の位置を調整するために斜め上方に引っ張ると、吸収パッド３００も引っ張られた方向にずれやすくなる。この場合、吸収パッド３００を逆方向に引っ張って、再度位置を調整する必要が生じるが、前側を引っ張ると今度は後側がずれてしまう等、吸収パッド３００を股間部の適切な位置にフィットさせることは難しい。

【０１０２】

なお、着用物品２００及び吸収パッド３００を着用する動作において、介護者等の第三者に補助してもらうことも考えられるが、着用者や第三者の精神的な負担が大きくなる場合があるため、着用者が一人で簡単に着用できることが望ましい。

【０１０３】

次に、本実施形態の着用物品１において吸収パッド１００を併用して着用する場合の動作について説明する。図７Ａ～図７Ｃは、着用物品１と吸収パッド１００とを併用する場合の着用物品１の着用方法について説明する図である。

【０１０４】

本実施形態では、先ず、着用物品１に対して吸収パッド１００を取り付ける。吸収パッド１００の取り付けは、上述したように、吸収パッド１００の吸収パッド係合領域１２０と着用物品１の係合領域３０とを係合させることによって行われる。そして、図７Ａのように、吸収パッド１００が取り付けられた状態の着用物品１の脚回り開口ＬＨ，ＬＨに着用者の両脚を通して、膝上辺りまで引き上げる。

【０１０５】

次いで、着用物品１の胴回り領域ＢＲを掴んで、上方へ引っ張り上げる。図７Ｂでは、着用者が両手を用いて胴回り領域ＢＲの左右方向両側部を掴んで上方へ引っ張っている。本実施形態では、吸収パッド１００が予め着用物品１に取り付けられているため、比較例の図６Ｂのように吸収パッドを片方の手で押さえておく必要が無いため、両手を使って着用物品１を引っ張り上げたり、片手で身体を支えながら引っ張り上げたりすることができる。また、着用物品１は、脚繰りが斜めにカットされているため、比較例のようなボクサーパンツ型の着用物品２００と比べて、着用時に、脚回り開口ＬＨが着用者の脚に引っかかり難い。さらに、着用物品１には上下方向の伸縮を抑制する手段として、伸縮抑制部２０が設けられている。したがって、図６Ｂのように、脚回り開口ＬＨが着用者の脚に引っかかって着用物品１が上下に長く伸長してしまうことが抑制され、着用物品１の全体をスムーズに引っ張り上げることができる。

【０１０６】

着用物品１が着用者の股下部付近まで引っ張り上げられた後、図７Ｃのように、着用物品１及び吸収パッド１００の位置調整が行われる。着用物品１では、係合領域３０（吸収パッド係合領域１２０）を介して着用物品１と吸収パッド１００とがしっかりと係合されているため、着用物品１を引っ張って位置を調整することで、吸収パッド１００の位置も連動して調整することができる。したがって、吸収パッド１００を着用者の股間部に適切にフィットさせることができる。

【０１０７】

＜着用物品１の変形について＞

着用物品１を着用する際には、先ず、図７Ａのように胴回り開口ＢＨ及び脚回り開口ＬＨに着用者の両脚を通す必要がある。その際、両手で着用物品１を左右方向の両側に引っ張って胴回り開口ＢＨ及び脚回り開口ＬＨを広げる動作が行われる。着用物品１のように伸縮性の高い編み生地によって形成されたパンツ型着用物品は、通常、弱い力でも簡単に

伸長させやすいため、胴回り開口ＢＨ等を左右方向に大きく広げることができる。

【０１０８】

しかしながら、そのような着用物品を左右方向に大きく伸長させた場合、上下方向に収縮が生じやすくなるおそれがある。図８Ａ及び図８Ｂは、編み生地によって構成されたパンツ型の着用物品を左右方向に伸長させた場合に生じる変形の様子について説明する図である。図８Ａは、自然状態における着用物品１を表している。同図８Ａの自然状態において、着用物品１の左右方向の長さを$L_0$、着用物品の上下方向の長さを$H_0$とする。

【０１０９】

図８Ｂは、着用物品１の胴回り領域ＢＲを自然状態から左右方向に２００％の長さまで伸長させたときの状態について表している。つまり、着用物品１の左右方向の長さが$2L_0$となるまで伸長させたときの状態を表している。図８Ｂにおいて、着用物品１の上下方向の長さは、$H_0$よりも短い$H_1$となっている（$H_1 < H_0$）。すなわち、着用物品１を自然状態から左右方向の寸法が２００％になるまで広げると、上下方向の寸法が$H_0$から$H_1$へ収縮する。これは、着用物品１を構成している編み生地の性質による。

【０１１０】

上述したように、一般な編み生地は、糸によってループを形成し、隣り合うループ同士を連結させることにより平面状に形成されている。そして、連結した複数のループを或る方向（例えば、所謂「コース方向」）に引っ張ると、各々のループが当該或る方向と交差する方向（所謂「ウェール方向」）に潰れるように変形する。これにより、編み生地が引っ張られた方向と交差する方向に収縮する。

【０１１１】

本実施形態の着用物品１では、上下方向の所定位置に係合領域３０が設けられ、当該係合領域３０に吸収パッド１００の吸収パッド係合領域１２０を係合させることによって、吸収パッド１００が取り付けられる。そのため、８Ａ及び図８Ｂのように着用物品１が上下方向に収縮した場合、係合領域３０の上下方向における位置が変化してしまい、吸収パッド１００に設けられた吸収パッド係合領域１２０との間に上下方向の位置ずれが生じ、両者が係合し難くなるおそれがある。

【０１１２】

そこで、着用物品１では、自然状態から左右方向に伸長させた際に、係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの距離が収縮し難くなるように脚回り開口ＬＨを形成することで、係合領域３０の上下方向における位置ずれを生じ難くしている。例えば、図８Ｂにおいて、胴回り領域ＢＲが左右方向に２００％伸長されたときに、該胴回り領域ＢＲは上下方向に大きく収縮する。一方、胴回り領域よりも下方で、一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨの左右方向の間に位置するクロッチ領域ＣＲでは、胴回り領域ＢＲと比較して左右方向の伸長が小さいため、上下方向の収縮も小さくなる。すなわち、脚回り開口ＬＨの大きさや形状を調整することにより、着用物品１のクロッチ領域ＣＲにおける上下方向の収縮量を調整することができる。以下、着用物品１の上下方向における収縮量について説明する。

【０１１３】

図９Ａ及び図９Ｂは、着用物品１を自然状態から左右方向に２００％に広げたときの上下方向における収縮量について説明する図である。同図９Ａ及び図９Ｂは、吸収パッド１００が取り付けられた状態の着用物品１を左右方向から見たときの断面を模式的に表している。図９Ａは、自然状態における着用物品１及び吸収パッド１００を表しており、図９Ｂは、着用物品１の胴回り領域ＢＲを自然状態（図９Ａ）から左右方向に２００％広げたときの状態を表している。なお、着用物品１は前後方向の前側と後側にそれぞれ係合領域３０（３１，３２）を備えているが、前後何れの係合領域３０（３１，３２）についても同様に考えることができるため、ここでは前側に設けられた前側係合領域３１に着目して説明を行う。

【０１１４】

着用物品１に吸収パッド１００を取り付ける際には、縦方向における中央位置ＣＬを折り目として吸収パッド１００を二つ折りにした状態で、着用物品１の胴回り開口ＢＨの上

側から内部に差し入れ、吸収パッド１００の折り目が着用物品１の最も下側（図９Ａの下端１ｂ$_0$）に当たるように配置する。この状態で、着用物品１の前側係合領域３１と、吸収パッド１００の前側吸収パッド係合領域１２１とが互いに係合可能となるように、係合領域３０及び吸収パッド係合領域１２０の上下方向における高さが調整されている。すなわち、吸収パッド１００の折り目（ＣＬ）が着用物品１の下端１ｂ$_0$に配置された状態で、上下方向において、前側係合領域３１と前側吸収パッド係合領域１２１とが重複する部分を有している。また、図９Ａの自然状態において、前側係合領域３１の上端３１ｔから着用物品１の下端１ｂ$_0$までの上下方向の長さをｈ$_0$とし、前側係合領域３１の上下方向における長さ（上端３１ｔと下端３１ｂとの間の距離）をＬ３１とする。

【０１１５】

次に、着用物品１の胴回り領域ＢＲを左右方向の両側に引っ張って、自然状態から左右方向に２００％まで伸長させると、図９Ｂのように着用物品１が上下方向に収縮した状態となる。そして、図９Ｂの状態で、前側係合領域３１の上端３１ｔの上下方向における位置（高さ）を、図９Ａにおける上端３１ｔの上下方向における位置と同じ高さに揃えると、着用物品１の下端位置は図９Ａの１ｂ$_0$から図９Ｂの１ｂ$_s$へ移動する。このとき、前側係合領域３１の上端３１ｔから着用物品１の収縮状態における下端１ｂ$_s$までの上下方向の長さはｈ$_s$となる。つまり、着用物品１を自然状態から左右方向に２００％まで伸長させることによって、前側係合領域３１の上端３１ｔから着用物品１の下端１ｂ$_0$までの上下方向の長さｈ$_0$が（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ収縮したことになる。言い換えると、着用物品１の下端１ｂ$_0$の上下方向における位置が、（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ上側に移動したことになる。

【０１１６】

一方、図９Ｂにおいて、吸収パッド１００は左右方向へ伸長されておらず、上下方向の収縮は発生しない。したがって、着用物品１の下端１ｂ$_0$の位置が（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ上方へ移動するのに伴って、吸収パッド１００の位置も全体的に（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ上方へ移動する。すなわち、吸収パッド１００の前側吸収パッド係合領域１２１の位置が（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ上方へ移動する。その結果、前側吸収パッド係合領域１２１と着用物品１の前側係合領域３１とが上下方向において重複する部分を有していない場合には、前側吸収パッド係合領域１２１と前側係合領域３１とを係合させることが困難となる。

【０１１７】

逆に言うと、前側吸収パッド係合領域１２１の位置が（ｈ$_0$－ｈ$_s$）だけ上方へ移動した場合であっても、上下方向において前側係合領域３１と重複する部分を有していれば、前側吸収パッド係合領域１２１と前側係合領域３１とを係合させることが可能となる。例えば、図９Ｂでは、上下方向において、前側吸収パッド係合領域１２１の下端１２１ｂが、前側係合領域３１の上端３１ｔよりも下側、且つ、下端３１ｂよりも上側に位置しているため、前側吸収パッド係合領域１２１と前側係合領域３１とが重複する部分を有し、両者は係合可能となっている。つまり、前側係合領域３１の上下方向における長さＬ３１が、前側吸収パッド係合領域１２１の上方への移動量（ｈ$_0$－ｈ$_s$）よりも大きければ、前側吸収パッド係合領域１２１と前側係合領域３１とを係合させることができる（Ｌ３１＞ｈ$_0$－ｈ$_s$）。

【０１１８】

本実施形態の着用物品１では、自然状態から左右方向に２００％に広げたときの、前側係合領域３１の上端３１ｔから着用物品１の下端１ｂ$_0$までの上下方向の長さｈ$_s$が、自然状態のときの、前側係合領域３１の上端３１ｔから着用物品１の下端１ｂ$_0$までの上下方向の長さｈ$_0$よりも、前側係合領域３１の上下方向における長さＬ３１の２倍以上短くならないように、一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨが形成されている（ｈ$_s$＞ｈ$_0$－Ｌ３１×２）。言い換えると、前側係合領域３１の上下方向における長さＬ３１が、前側吸収パッド係合領域１２１の上方への移動量（ｈ$_0$－ｈ$_s$）の半分よりも大きくなるように脚回り開口ＬＨ，ＬＨが形成されている（Ｌ３１＞（ｈ$_0$－ｈ$_s$）／２）。

【０１１９】

これにより、着用物品１を着用する際に胴回り領域ＢＲを左右方向に広げた場合であっ

ても、脚回り開口ＬＨ，ＬＨの間のクロッチ領域ＣＲでは上下方向における収縮が制限され、着用物品１に設けられた係合領域３０と、吸収パッド１００に設けられた吸収パッド係合領域１２０とが上下方向において重複する部分（係合可能な部分）を有する確率が高くなる。したがって、吸収パッド１００を着用物品１に係合させやすくすることができる。

【０１２０】

なお、前側係合領域３１の上下方向における長さＬ３１が、前側吸収パッド係合領域１２１の上方への移動量（$h_0-h_s$）よりも大きくなるようにすれば（$L31>h_0-h_s$）、係合領域３０と吸収パッド係合領域１２０とが上下方向において重複する部分を有する確率をより高くすることができる。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１２１】

また、着用物品１は、自然状態において、脚回り開口ＬＨの上端ＬＨｔが、着用物品の１左右方向の中央位置における下端（図９Ａにおける$1b_0$）よりも上側に位置しており、脚回り開口ＬＨが斜めに切れ上がったショーツ型形状を有している（図２等参照）。このように脚回り開口ＬＨが上下方向に所定の幅を有していることにより、図５で例示したようなボクサーパンツ型の着用物品と比較して、胴回り領域ＢＲの上下方向における幅が狭くなる。すなわち、着用物品１の上下方向の全体に占める胴回り領域ＢＲの割合が小さくなり、クロッチ領域ＣＲの割合が大きくなる。上述したように、着用物品１を左右に広げた場合、胴回り領域ＢＲにおける上下方向の収縮が大きいのに対して、クロッチ領域ＣＲでは胴回り領域ＢＲと比較して上下方向の収縮は小さい。したがって、係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの領域の上下方向における収縮量も相対的に小さくなり、係合領域３０と吸収パッド係合領域１２０との上下方向における位置ずれが生じ難くなる（図９Ｂ参照）。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１２２】

また、着用物品１の係合領域３０は、胴回り領域ＢＲに設けられている。そして、図２Ａに示されるように、上下方向において、係合領域３０（３１）の上端３１ｔは胴回り領域ＢＲの中央位置ＣＬＢＲよりも下側に位置している。本実施形態では、係合領域３０の上端と着用物品１の下端との間の上下方向における距離の変化（収縮）を小さくすることで、係合領域３０と吸収パッド係合領域１２０との上下方向における位置ずれを生じ難くしている。したがって、係合領域３０の上端が胴回り領域ＢＲの上方に位置していた場合、係合領域３０の上端と着用物品１の下端との間の上下方向における距離が長くなるため、その分収縮の割合も大きくなり、吸収パッド係合領域１２０との上下方向における位置ずれが生じやすくなる。これに対して、係合領域３０の上端が、胴回り領域ＢＲの中央位置よりも下側に位置していることにより、逆の場合と比較して、係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの距離が短くなる。これにより、着用物品１の上下方向における収縮に伴う係合領域３０の上下方向における移動量が小さくなり、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１２３】

また、係合領域３０の伸縮性は、着用物品１（本体部１０）を構成している生地の伸縮性よりも低いことが好ましい。すなわち、係合領域３０を上下方向及び左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力は、本体部１０を構成している編み生地を上下方向及び左右方向に単位長さだけ伸長させるときに要する力よりも大きいことが好ましい。このような構成であれば、着用物品１を左右方向に引っ張ったときに、係合領域３０よりも上側の領域における伸長の影響が、係合領域３０より下側の領域（クロッチ領域ＣＲを含む）に及びにくくなる。すなわち、係合領域３０を境界として、下側の領域（クロッチ領域ＣＲ）における上下方向の収縮が抑制されやすくなる。また、係合領域３０自体が上下方向に伸縮し難いため、全体として着用物品１の上下方向における収縮が抑制されやすくなる。これにより、係合領域３０が上下方向に移動し難くなり、吸収パッド１００を着用物品１に係合させやすくすることができる。

【０１２４】
さらに、左右方向において、係合領域３０とクロッチ領域ＣＲとが重複する部分を有していることが好ましい。他の領域と比較して伸縮性の低い係合領域３０では着用物品１が左右方向に伸長し難くなるため、当該係合領域３０と重複する部分においてクロッチ領域ＣＲの左右方向における伸長が抑制されやすくなる。したがって、着用物品１が左右方向に広げられた場合であっても、クロッチ領域ＣＲの上下方向における収縮は抑制され、係合領域３０が上下方向に移動し難くなる。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。
【０１２５】
また、着用物品１のクロッチ領域ＣＲには、上下方向に所定の長さを有する伸縮抑制手段（伸縮抑制部２０）が設けられている。図２では、クロッチ領域ＣＲの上下方向の全体に亘って、伸縮抑制手段として中央伸縮抑制部２１，２２が設けられている。中央伸縮抑制部２１，２２は、伸縮性の高い編み生地によって構成された本体部１０の所定の部分に伸縮性の低い糸を縫い込む等の加工を施すことで形成されており、そのような加工が施されていない部分と比較して上下方向に収縮し難くなっている。したがって、着用物品１が左右方向に伸長された場合であっても、クロッチ領域ＣＲのうち伸縮抑制手段（中央伸縮抑制部２１，２２）が設けられた部分は上下方向に収縮し難くなる。これにより、係合領域３０の上下方向における移動量が小さくなり、吸収パッド１００を着用物品１に係合させやすくすることができる。
【０１２６】
また、伸縮抑制手段（中央伸縮抑制部２１，２２）は、上下方向において、クロッチ領域ＣＲから、クロッチ領域ＣＲの上端よりも上側の胴回り領域ＢＲまで連続して設けられている。したがって、中央伸縮抑制部２１，２２が設けられている部分では、着用物品１の上下方向の広い範囲に亘って、上下方向の収縮が抑制されやすくなる。これにより、係合領域３０の上下方向における移動量が小さくなり、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。
【０１２７】
また、伸縮抑制手段（中央伸縮抑制部２１，２２）は、左右方向における中央部に設けられている。着用物品１を左右方向の両側に広げようとする場合、左右方向の中央部が最も収縮しやすくなる。すなわち、着用物品１は、左右方向の中央部において、上下方向の収縮が最も大きくなりやすい。これに対して、左右方向の中央部に中央伸縮抑制部２１，２２が設けられていることにより、着用物品１の左右方向の中央部における過度な収縮が抑制されやすくなる。したがって、係合領域３０の上下方向における移動量が小さくなり、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。
【０１２８】
また、中央伸縮抑制部２１（２２）の左右方向の両側には、上下方向に所定の長さを有する一対のサイド伸縮抑制部２３，２３（２４，２４）（両側部伸縮抑制手段）が設けられている（図２参照）。このサイド伸縮抑制部２３（２４）も、中央伸縮抑制部２１（２２）と同様に、本体部１０の上下方向への伸縮を抑制する伸縮抑制手段としての機能を有している。したがって、着用物品１を左右方向の両側に広げようとしたときに、サイド伸縮抑制部２３（２４）が設けられていることによって、左右方向の両側部においても上下方向の収縮が抑制されやすくなる。すなわち、着用物品１の左右方向における広い範囲で上下方向の収縮が抑制されやすくなり、係合領域３０の上下方向における移動量を小さくすることができる。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。
【０１２９】
なお、本実施形態の着用物品１において、伸縮抑制手段（伸縮抑制部２０）は弾性部材を含んでいない。すなわち、本体部１０に伸縮抑制部２０を形成する際に、シリコンやラバー等の弾性を有する部材を溶着や圧着する加工は施されない。仮に、弾性を有する部材が伸縮抑制部２０に含まれていた場合、当該弾性部材が発現する弾性力により、着用物品

１は、自然状態においても上下方向に収縮しやすくなるおそれがある。これに対して、伸縮抑制手段（伸縮抑制部２０）に弾性部材が含まれていなければ、少なくとも自然状態において、着用物品１は上下方向に収縮していないため、着用物品１を左右方向に広げたときに上下方向の収縮が過度に大きくなってしまうことを抑制することができる。したがって、係合領域３０の上下方向における移動量を小さくすることができる。

【０１３０】

また、一対の脚回り開口ＬＨ，ＬＨには、その周縁に沿ってそれぞれ脚回りかがり縫い部１３が設けられている。当該脚回りかがり縫い部１３によって、クロッチ領域ＣＲの両側部に設けられた脚回り開口ＬＨ，ＬＨの周縁の剛性が高められるため、クロッチ領域ＣＲの両側部における伸縮性が弱められる。したがって、クロッチ領域ＣＲの両側部が上下方向に収縮し難くなり、係合領域３０の上端と着用物品１の下端との間の上下方向における距離が変動し難くなり、係合領域３０の上下方向における移動量を小さくすることができる。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１３１】

また、着用物品１（クロッチ領域ＣＲ）の下端部には、左右方向に沿って所定の長さを有する股下縫い部１２が設けられている。当該股下縫い部１２によって、クロッチ領域ＣＲの下端部における剛性が高められ、左右方向の伸縮が抑制されやすくなる。すなわち、胴回り領域ＢＲが左右方向に広げられた場合であっても、クロッチ領域ＣＲは左右方向に伸長し難くなる。したがって、クロッチ領域ＣＲの上下方向の収縮も抑制され、係合領域３０の上下方向における移動量を小さくすることができる。これにより、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１３２】

そして、着用物品１では、股下縫い部１２と脚回りかがり縫い部１３とが交差する部分を有している。両者が連結して骨格の様に機能することにより、クロッチ領域ＣＲの下端部及び両側部の剛性が高められ、クロッチ領域ＣＲの全体として過度な伸縮が抑制されやすくなる。すなわち、クロッチ領域ＣＲの左右方向における伸長、及び、上下方向における収縮がより抑制されやすくなる。これにより、係合領域３０の上下方向における移動量が小さくなり、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１３３】

また、着用物品１において、胴回り領ＢＲを自然状態から左右方向に２００％広げたときにおける係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの最大長さ（図９Ａにおける$h_s$）を、自然状態における係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの最大長さ（図９Ａにおける$h_0$）まで伸長させるのに要する力は、胴回り領ＢＲを自然状態から左右方向に２００％広げるときに要する力の１／５以下であることが好ましい。すなわち、着用物品１を左右方向に２００％広げることによって、係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの上下方向の長さが収縮した場合であっても、収縮した分の長さを弱い力で伸長させることが可能であることが好ましい。このような構成であれば、着用物品１を左右方向に広げて吸収パッド１００を差し入れる際に、着用物品１の上下方向の寸法が収縮していたとしても、吸収パッド１００を股下側に軽く押し込むことで、上下方向の寸法を元の状態（自然状態における上下方向の寸法）に戻すことができる。

【０１３４】

つまり、逆の場合（胴回り領ＢＲを自然状態から左右方向に２００％広げたときにおける係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの最大長さを、自然状態における係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの最大長さまで伸長させるのに要する力が、胴回り領ＢＲを自然状態から左右に２００％広げるときに要する力の１／５よりも大きい場合）と比較して、係合領域３０の上端から着用物品１の下端までの長さを、元の状態に戻しやすくすることができる。したがって、着用物品１の係合領域３０と吸収パッド係合領域１２０との上下方向における位置ずれが生じ難くなり、吸収パッド１００を着用物品１により係合させやすくすることができる。

【０１３５】
＜着用物品１の収容体について＞
製造工場等で製造された着用物品１は、コンパクトに折り畳まれ、所定の収容部材に１個または複数個ずつ収容された状態で出荷され、市場に流通する。以下では、収容部材７０に複数の着用物品１が収容された着用物品の収容体９０について説明する。
【０１３６】
図１０は、着用物品収容体９０（以下、単に「収容体９０」とも呼ぶ）の一例を表す概略斜視図である。収容体９０は、袋状の部材である収容部材７０と、該収容部材７０の内部に収容される１以上の着用物品１とを有している。なお、収容体９０には、吸収パッド１００は収容されておらず、ユーザーが着用物品１と吸収パッド１００とを併用する際には、別途吸収パッド１００を購入する等により準備する必要がある。
【０１３７】
収容体９０は、図１０に示されるように、互いに交差する第１方向と、第２方向と、第３方向と、を有している。そして、第１方向の一方側を上側とし、他方側を下側とする。同様に、第２方向の一方側を右側、他方側を左側とし、第３方向の一方側を前側、他方側を後側とする。
【０１３８】
収容部材７０は、図１０に示されるような略直方体形状の容器であり、収容部材７０を構成するシート部材である基材シート７１を折り曲げて、所定の部位を接合することによって形成される。基材シート７１は、樹脂製のシート部材であり、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ポリカーボネート、ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）等の液不透過性の樹脂を使用できる。収容部材７０に着用物品１を収容する際には、先ず。基材シート７１を折り曲げて、第１方向の上端部に開口を有する袋状に形成し（不図示）、上端部の開口から所定数の着用物品１を収容する。着用物品１を収容した後、上端部にて図１のように基材シート７１を折り曲げ（例えば、ガゼット折り）、対向する面同士を接合して開口を閉じる。これにより、図１０の様な略直方体状の収容体９０となる。但し、収容部材７０の形状や基材シート７１の折り曲げ方、着用物品１の封入方法はこの限りではない。
【０１３９】
収容部材７０の第３方向の前側の面は、収容体９０の正面に相当し、販売店等でユーザーが目視する面である。そして、収容部材７０の正面には複数の文字や絵からなる情報が表示（印刷）されている。図１０の例では、商品名表示部７２と、商品イメージ表示部７３と、説明表示部７４と、注記表示部７５とが設けられている。商品名表示部７２は、着用物品１の商品名を表す情報が表示される部分であり、ユーザーは、商品名表示部７２を目印として多種類の吸収性物品のなかから着用物品１を選択して購入することができる。商品イメージ表示部７３は、着用物品１やユーザーに関する画像を表す情報が表示される部分である。ユーザーは、商品イメージ表示部７３を視認することで、商品の概要やその商品がどのような人を着用対象者としているのかを一見して理解しやすくなる。
【０１４０】
説明表示部７４は、着用物品１の商品説明を表す情報が表示される部分であり、少なくとも吸収パッド１００と併用されることを想起させる表示を備える。図１０では、着用物品１が吸収パッドと併用可能であることや、併用する吸収パッド（吸収パッド１００）を説明する情報が表示されている。注記表示部７５は、説明表示部７４に表示された情報以外の注記が表示される部分であって、ユーザーの利益となる情報を表している。図１０では、着用物品１が繰り返して使用できることを表す情報が表示され、ユーザーは、着用物品１が再利用可能であることを認識することができる。
【０１４１】
なお、これらの情報表示部７２～７５は、収容部材７０を構成する基材シート７１に印刷されているのではなく、基材シート７１の表面に所定の情報が表示されたシールを貼り付けること等によって構成されるのであっても良い。また、基材シート７１が透明なシー

ト部材である場合には、所定の情報が表示されたカード等を内部に封入して、外側から当該カードを視認可能にすること等によって構成されていても良い。

【０１４２】

このような収容体９０として市場に流通することで、当該収容体９０を視認したユーザーは、着用物品１の機能や使用態様を認識しやすくなり、着用物品１を正しく使用することができるようになる。

【０１４３】

＜着用物品１の洗濯について＞

着用物品１は洗濯して繰り返し使用することが可能であることを説明したが、洗濯を行った場合、乾きやすさが重要である。例えば、着用物品１の着用者が風呂に入っている間に、着用物品１を洗濯して乾かしておき、風呂から出た後に洗濯後の着用物品１を再度着用するような使用態様を想定した場合、着用物品１が高い乾燥性を備えていることが好ましい。

【０１４４】

本実施形態の着用物品１は、以下のような構成により、乾燥性を高めている。先ず、乾燥性を高める構成として、着用物品１を構成する生地の観点から説明する。本実施形態において、着用物品１（本体部１０）を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンを９０重量％以上含んでいる。ポリエステル及びポリエチレンは、綿と比較して伸度が高い素材であり、そのような素材を多く含むことで、より伸び易さを実現することができる。また、ポリエステル及びポリエチレンは、非吸水性であり、且つ、高い速乾性を有する素材であるため、洗濯後の乾燥時間を短縮することができ、着用物品１の乾燥性が向上する。なお、生地の組成（各素材の重量％）は、測定により確認可能であり、或いは、製品のタグに記載されている「混用率」を確認しても良い。

【０１４５】

また、本実施形態において、着用物品１を構成している生地は、吸水性素材を含んでいない。吸水性素材とは、例えば、綿やレーヨン等である。吸水性素材を含まないことで、生地が水を含みにくくなり、故に、洗濯後の乾燥時間を短縮でき、着用物品１の乾燥性を向上させる。

【０１４６】

また、着用物品１を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンよりも伸縮性が高い素材を１０重量％未満含んでいる。そのようなより伸縮性の高い素材としては、例えば、ポリウレタン等が挙げられる。着用物品１を構成している生地のうち、９０重量％以上はポリエステル又はポリエチレンであるので、上述した伸縮性がより高い素材が残りの１０重量％未満に含まれることで、良好な乾燥性を担保しつつ、伸縮性の向上を実現できる。なお、そのような高伸縮性素材の混用率が多すぎる（１０重量％以上になる）と、着用物品１（本体部１０）に皺がよってしまうほど縮んでしまうおそれや、縮み過ぎて、脚回り開口ＬＨ、ＬＨに脚を通す際に脚がひっかかり易くなるおそれもあるため、混用率は１０重量％未満であることが好ましい。

【０１４７】

また、着用物品１を構成している生地は、ポリエステル、又はポリエチレンよりも伸縮性が高い素材を含む領域と含まない領域とを有する。例えば、着用物品１において特にフィット性が必要なところに伸縮性の高い素材を配置する（すなわち、より伸縮性が高い素材を含む領域を形成する）ことで、着用物品１の一部に限定してフィット性をより高めることができ、機能性が向上する。また、一部のフィット性を高めるだけでなく、例えば、より伸縮性が高い素材を含む領域を、間隔を空けて複数箇所設ける等により、着用物品１の全体としてのフィット感を向上させることもできる。

【０１４８】

次に、乾燥性を高める構成として、係合領域３０の観点から説明する。係合領域３０には、上述したように、本体部１０を構成する編み生地とは異なる別体のシート部材（例えば、面ファスナー）が設けられることが好ましく、そして、当該別体のシート部材は、ポ

リエチレン又はポリエステルで構成されていることが好ましい。別体のシート部材は、本体部１０に接合されるため、本体部１０と同様に、別体のシート部材も高い速乾性を有する素材によって構成されていることで、着用物品１の乾燥性が向上する。

【０１４９】

また、別体のシート部材は、当該別体のシート部材の周縁部に沿って糸で縫い付けることにより、着用物品１を構成している生地（本体部１０）に接合される。よって、糸で縫われた周縁部よりも内側の領域は、生地と別体のシート部材とが厚さ方向に密着（接合）しておらず、別体のシート部材と生地との間に空間が形成されている。つまり、別体のシート部材全体が生地に接合されている状態ではないため、全体が接合されている場合と比較すると、別体のシート部材のうち生地と接する面において空気と接触する面積が広くなり、水分を蒸発させやすくなる。そのような空気が逃げやすい構成を有することにより、乾燥性が向上する。

【０１５０】

さらに、本実施形態において、厚さ方向に見たときに、別体のシート部材と伸縮抑制部２０（前側中央伸縮抑制部２１及び後側中央伸縮抑制部２２）とが重複する部分を有する（図２参照）。具体的には、別体のシート部材は、収縮力の異なる領域（伸縮抑制部２０）を跨ぐように配置されている。伸縮抑制部２０が設けられていることにより、着用物品１を構成している生地に収縮力の変化が生じ、生地の肌側面と別体のシート部材の非肌側面との間に、空間がより形成されやすくなる。そのような空間から空気が逃げやすくなることで、乾燥性が向上する。

【０１５１】

また、別体のシート部材の大きさは、上下方向の長さが５０ｍｍ以下、且つ、左右方向の長さが１５０ｍｍ以下であることが好ましい。別体のシート部材が大きくなりすぎると、当該シート部材の部分が乾燥しにくくなるおそれがあるが、上述した範囲内の大きさとすることで、生地に対して十分な係合力を維持できる面積を確保しつつ、乾燥しやすくなる。

【０１５２】

また、別体のシート部材の厚さは、３ｍｍ以下であることが好ましい。それにより、生地に対して十分な係合力を維持できる厚みを確保しつつ、厚すぎないことで、乾燥しやすさも維持できる。

【０１５３】

続いて、乾燥性を高める構成として、さらに別の観点から説明する。図１１は、着用物品１の前側の胴回り領域ＢＲと後側の胴回り領域ＢＲとを左右方向の両側端で切断し、上下方向に展開した状態を示す概略平面図である。具体的に、上述の展開した状態とは、上下方向に展開して、自然状態で水平面上に静置した状態である。図１１の展開状態においては、上下方向において前側係合領域３１の上端３１ｕｅと後側係合領域３２の上端３２ｕｅとの間、且つ、左右方向において前側係合領域３１及び後側係合領域３２の最も一方側（左側）の端３１ｐｅ、３２ｐｅと前側係合領域３１及び後側係合領域３２の最も他方側（右側）の端３１ｒｅ、３２ｒｅとの間の領域Ｓ１（図１１にて斜線で示した部分）の面積は、それ以外の領域Ｓ２の面積よりも小さい。着用物品１を構成している生地のうち領域Ｓ１は、通常、吸収パッド１００の装着時に吸収パッド１００によって覆われる領域である。そのため、仮に、着用物品１の洗濯後の乾燥が若干不十分であったり、別の要因で吸収パッド１００を装着後に着用物品１が濡れることがあった場合に、領域Ｓ１は、吸収パッド１００によって覆われていることでその後の乾燥性が低くなり易い。しかしながら、着用物品１を構成する生地において、領域Ｓ１の面積が領域Ｓ２の面積よりも小さいことにより、逆の場合と比較して、着用物品１の全体の乾燥性の低下を抑制しやすい。

【０１５４】

なお、本実施形態において、上述の領域Ｓ１の面積は、それ以外の領域Ｓ２の面積よりも小さいが、これに限定されるものではない。上記とは逆に、領域Ｓ１の面積は、それ以外の領域Ｓ２の面積よりも大きくてもよい。この場合、着用物品１の洗濯後の乾燥が若干

不十分であっても、領域Ｓ１は、吸収パッド１００によって覆われるため肌が濡れにくく、着用感が悪化しにくい。

【０１５５】

＝＝＝その他＝＝＝

上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれることは言うまでもない。

【０１５６】

上述の実施形態では、本体部１０の伸縮を抑制する伸縮抑制手段として、伸縮抑制部２０が設けられることを説明したが、伸縮抑制部２０以外の伸縮抑制手段が設けられていても良い。例えば、係合領域３０に面ファスナー等の別体のシート部材が設けられている場合には、当該係合領域３０においても本体部１０の伸縮が抑制される。すなわち、係合領域３０も伸縮抑制手段としての機能を備える場合がある。

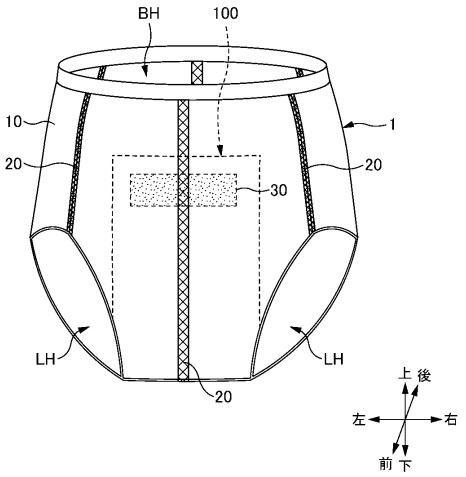
【符号の説明】

【０１５７】

１　着用物品（パンツ型着用物品）、
１ｂ$_0$　下端（自然状態）、１ｂ$_s$　下端（収縮時）、
１０　本体部、
１１　胴回り折り返し部、１２　股下縫い部、１３　脚回りかがり縫い部、
２０　伸縮抑制部（伸縮抑制手段）、
２１　前側中央伸縮抑制部、２２　後側中央伸縮抑制部、
２３　前側サイド伸縮抑制部（両側部伸縮抑制手段）、
２４　後側サイド伸縮抑制部（両側部伸縮抑制手段）、
３０　係合領域、
３１　前側係合領域、３１ｂ　下端、
３１ｐｅ　一方側の端、３１ｒｅ　他方側の端、３１ｔ　上端、３１ｕｅ　上端、
３２　後側係合領域、
３２ｐｅ　一方側の端、３２ｒｅ　他方側の端、３２ｕｅ　上端、
７０　収容部材、
７１　基材シート、
７２　商品名表示部、７３　商品イメージ表示部、７４　説明表示部、
７５　注記表示部、
９０　着用物品収容体、
１００　吸収パッド、
１１０　吸収体、１１１　トップシート、１１２　バックシート、
１１５　サイドシート、１１６　吸収パッド弾性部材、
１２０　吸収パッド係合領域、
１２１　前側吸収パッド係合領域、
１２２　後側吸収パッド係合領域、
２００　着用物品（比較例）、
３００　吸収パッド（比較例）、
ＢＨ　胴回り開口、
ＬＨ　脚回り開口、ＬＨｔ　上端、ＬＨｂ　下端、
ＢＲ　胴回り領域、
ＣＲ　クロッチ領域、
ｈ$_0$　長さ（自然状態）、ｈ$_s$　長さ（収縮時）
Ｓ１　領域、Ｓ２　領域

【図面】

【図１】




【図２】

図2A

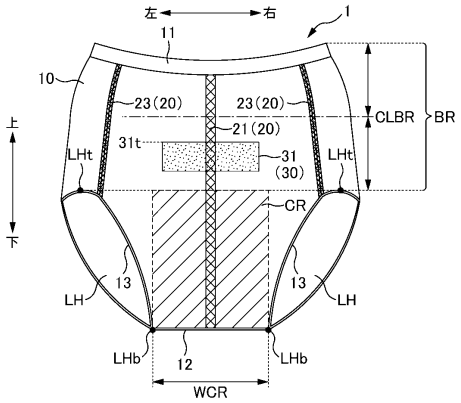
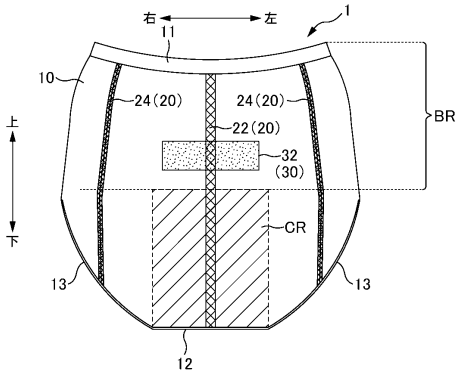
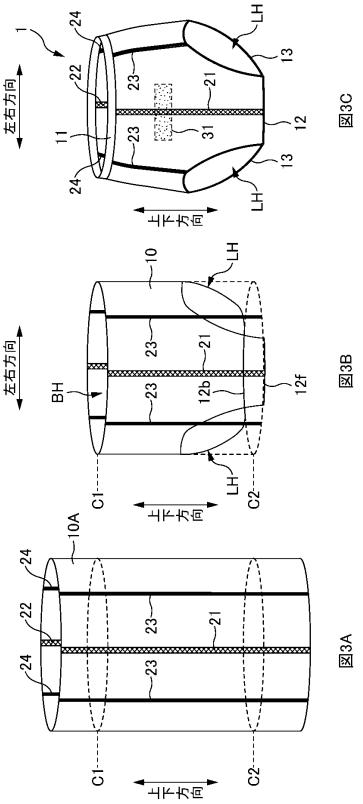


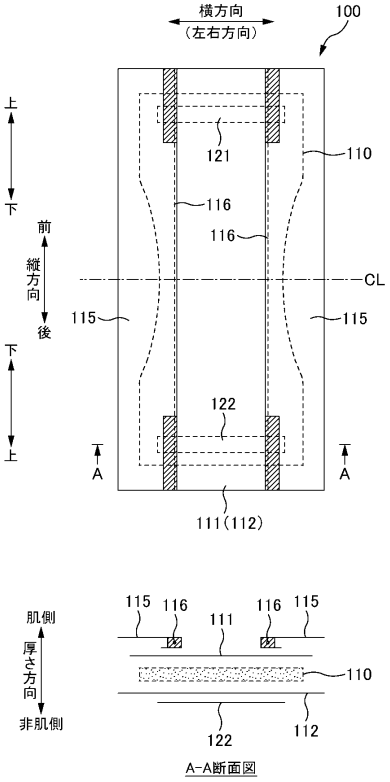

図2B



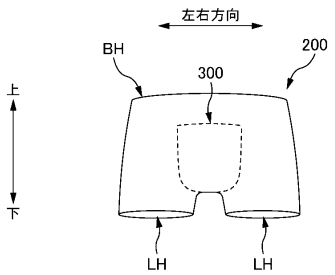
【図３】


1
24
LH
13
22
23
21
左右方向
11
31
12
上下方向
図3C
10
12f
12b
BH
C1
C2
図3B
10A
図3A

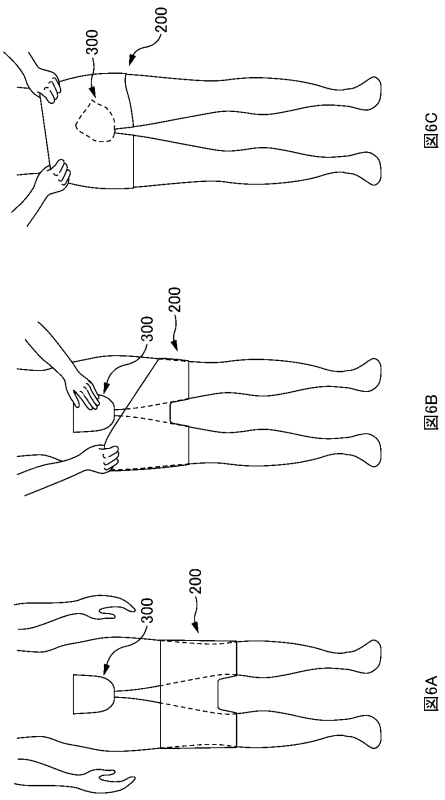
【図４】


横方向
（左右方向）
100
上
下
前
縦方向
後
CL
121
110
116
115
122
A
111(112)
肌側
厚さ方向
非肌側
111
112
A-A断面図

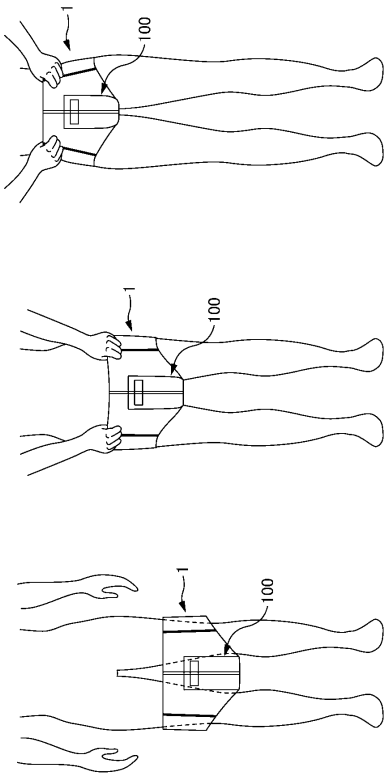
【図５】


左右方向
BH
200
300
上
LH
LH

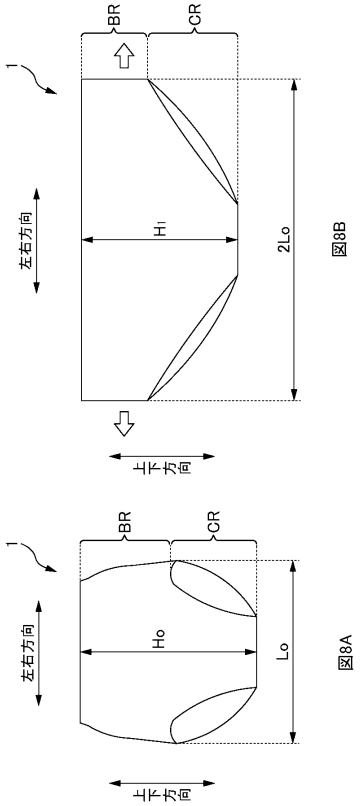
【図６】


300
200
図6C
図6B
図6A

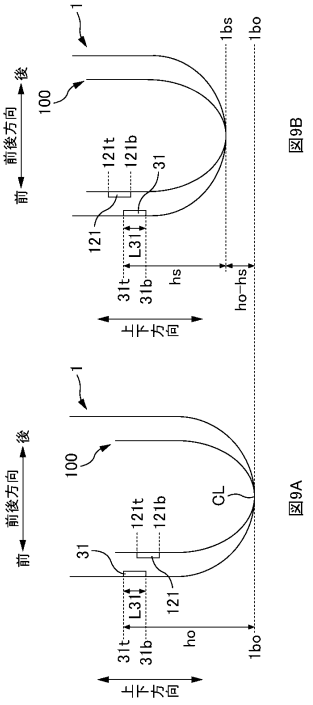
【図７】


1
100
図7C
図7B
図7A

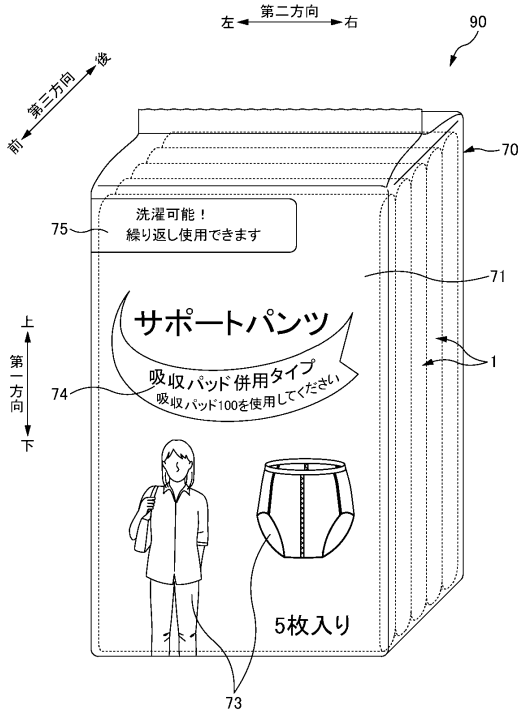
【図８】


BR
CR
1
左右方向
Hi
2Lo
上下方向
図8B
Ho
Lo
図8A

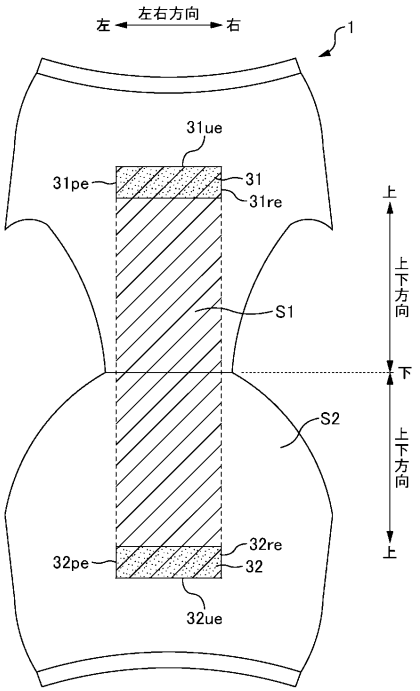
【図９】


1
100
前後方向
前
後
121t
121b
31
121
L31
31t
31b
hs
ho-hs
1bs
1bo
上下方向
図9B
CL
ho
図9A

【図１０】


左
第二方向
右
90
前
後
70
洗濯可能！
繰り返し使用できます
75
71
サポートパンツ
吸収パッド併用タイプ
吸収パッド100を使用してください
74
第一方向
上
下
1
5枚入り
73

【図１１】


左
左右方向
右
1
31ue
31pe
31
31re
上
上下方向
S1
下
S2
上下方向
32re
32pe
32
上
32ue

フロントページの続き

７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
(72)発明者 コータンサブ チュティカーン
タイ チャチャンサオ， アンプアー バンパコン， タンボン バンブアー， １０５ ムー ９， ウェルグロー インダストリアル エステート フェーズ ３
(72)発明者 ウォンキティシン マリサー
タイ チャチャンサオ， アンプアー バンパコン， タンボン バンブアー， １０５ ムー ９， ウェルグロー インダストリアル エステート フェーズ ３

審査官 ▲桑▼原 恭雄
(56)参考文献 特開２０２２－１４２６４４（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－９３３２１（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－２８４２００（ＪＰ，Ａ）
特表２０１６－５１４９８１（ＪＰ，Ａ）
国際公開第２０２１／１３０１６５（WO，Ａ１）
(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４１Ｂ ９／０２
Ａ４１Ｂ ９／０４
Ａ４１Ｂ ９／１２
Ａ６１Ｆ １３／７２